

【 研 究 主 題 】
課題を解決するために必要な資質・能力を育成する授業に関する研究
－主体的・協働的に学ぶ学習の工夫を通して－

第1章 研究主題に関する基本的な考え方

1 研究主題設定の理由

現在の児童生徒が成人して活躍する頃の社会は、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく変化し、子供たちが就くことになる職業の在り方についても、現在とは様変わりすることになるだろうと指摘されている。そのような社会において直面する課題は、複雑であったり未知のものであったりし、答えが多様で正答の定まらない問いといった性質のものであることが多いと言われている。このような社会の変化を踏まえて行われた文部科学大臣から中央教育審議会への諮問においても、自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的・協働的に取り組んでいくことができる児童生徒を育成するための学習指導の在り方についての検討が求められている【資料1】。

そこで、まずは、児童生徒に育成したい課題を解決するために必要な資質・能力とはどのようなものか考え方を整理し、明確にする必要があると考える。次に、そのような資質・能力を育成するためには、授業においてどのような課題の解決に取り組ませるべきかが重要であることから、課題設定の考え方や工夫の視点について明らかにする必要がある。そして、児童生徒が課題解決に向けて主体的・協働的に学ぶための学習の在り方について、考え方や工夫の視点を明らかにする必要がある。このような視点から研究を進めることは、授業づくりの過程において、育成したい資質・能力を踏まえた明確な目標設定や、目標を踏まえた課題設定、学習活動や教師の手立ての具体化につながることを期待できる【資料2】。

以上のことから、時代背景や教育の動向を踏まえ、課題を解決するために必要な資質・能力を授業を通して育成するために、児童生徒が主体的・協働的に学ぶ学習の在り方を見直し、実践研究を推進することをねらいとして、本研究主題を設定した。

なお、本研究は平成27、28年度の2年間にわたり、取り組んでいく予定である。

【資料1】文部科学大臣諮問（一部抜粋）

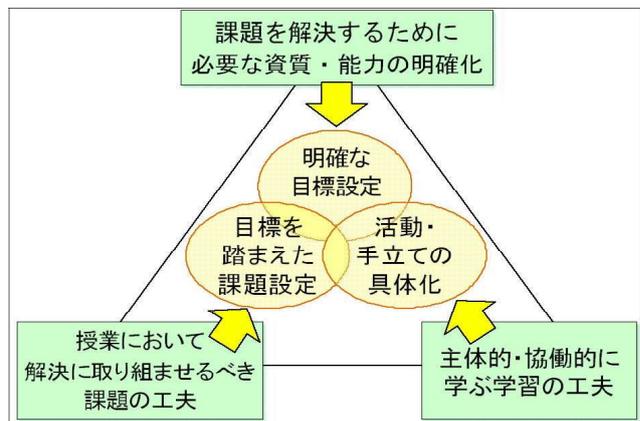
初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）
 平成26年11月20日

（中略）

これらの取組に共通しているのは、ある事柄に関する知識の伝達だけに偏らず、学ぶことと社会とのつながりをより意識した教育を行い、子供たちがそうした教育のプロセスを通じて、基礎的な知識・技能を習得するとともに、実社会や実生活の中でそれらを活用しながら、自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的・協働的に探究し、学びの成果等を表現し、更に実践に生かしていけるようにすることが重要であるという視点です。

そのために必要な力を子供たちに育むためには、「何を教えるか」という知識の質や量の改善はもちろんのこと、「どのように学ぶか」という、学びの質や深まりを重視することが必要であり、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習（いわゆる「アクティブ・ラーニング」）や、そのための指導の方法等を充実させていく必要があります。

【資料2】研究の視点を生かした授業づくりのイメージ



2 教員の意識や取組に関する本県の実態

(1) 調査の概要

ア 調査目的

本県の教員は児童生徒の資質・能力の育成状況や、授業において取り組ませる課題や学習活動に対してどのような意識をもち、取り組んでいるか、把握する。

イ 調査内容

- (ア) 児童生徒に身に付けさせたい力について
- (イ) 授業で取り組ませる学習課題について
- (ウ) 授業で取り組ませる学習活動について
- (エ) 学習評価について

ウ 調査対象と期間

(ア) 調査対象

研究協力員、短期研修講座の受講者、研究提携校の教員の内、国語、社会・地歴・公民、算数・数学、理科、外国語活動、外国語に関する講座受講者、若しくは研究教科としている小、中、高等学校の教員（調査人数 小学校271人、中学校158人、高等学校65人）

(イ) 調査期間

平成27年7月～12月

エ 調査方法

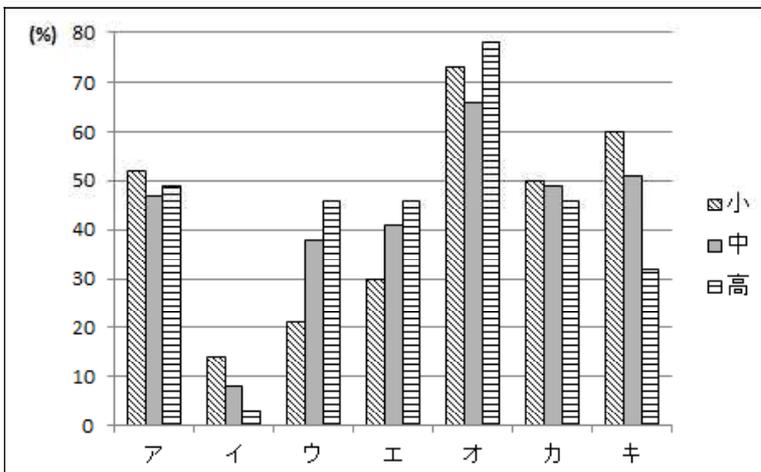
質問紙調査法（選択式，一部記述）

(2) 調査の結果と考察

ア 児童生徒に身に付けさせたい力について

(ア) 課題解決に必要となる理解や表現のための基礎的な力について

- ① 次のア～キは、児童生徒に身に付けさせたいと考えられる基礎的な力の主なものです。これらのうち、あなたが現在授業を担当している児童生徒について、不十分だと感じているものを三つ選んでください。
- ア 文章を読んで書かれている事柄を正しく読み取ることができる。
 - イ ICT機器を用いて必要な情報を集めることができる。
 - ウ 図や表、グラフに表されている事柄を正しく読み取ることができる。
 - エ 数や式、図、表などを効果的に用いて考えることができる。
 - オ 自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書くことができる。
 - カ 自分で調べたことや考えたことを分かりやすく話すことができる。
 - キ 話題に沿って話し合い、互いの考えを高め合うことができる。

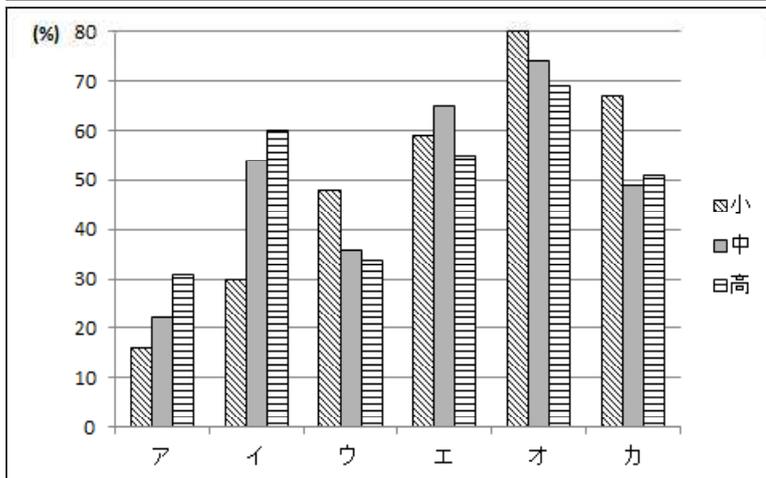


【図1】不十分だと感じる基礎的な力

どの校種でも、ア文章を正しく読み取ることや、調べたことや考えたことをオ書いたりカ話したりすることが不十分だと感じている教員が多く、また、小、中学校ではキ話し合いを通して互いの考えを高め合うことが不十分だと感じている教員が多いことが分かった。このような傾向は平成27年度全国学力・学習状況調査の本県の分析でも指摘されており、課題であると捉えられる。

(イ) 課題解決の際に発揮される思考力について

- ② 次のア～カは、児童生徒に身に付けさせたいと考えられる思考力の主なものです。これらのうち、あなたが現在授業を担当している児童生徒について、不十分だと感じているものを三つ選んでください。
- ア 提示された事象等から課題を見いだすことができる。
 - イ 課題を解決するために予想や仮説を立てたり、解決の方法を考えたりするなど、見通しをもって取り組むことができる。
 - ウ 比較、関係付け、類推などの考える方法を用いて考えることができる。
 - エ 物事を順序立てて考えたり、根拠を明らかにして考えたりするなど、筋道立てて考えることができる。
 - オ 物事を複数の視点から検討するなど、多面的に考えることができる。
 - カ ある考えを基にして、異なる考えを生み出すことができる。

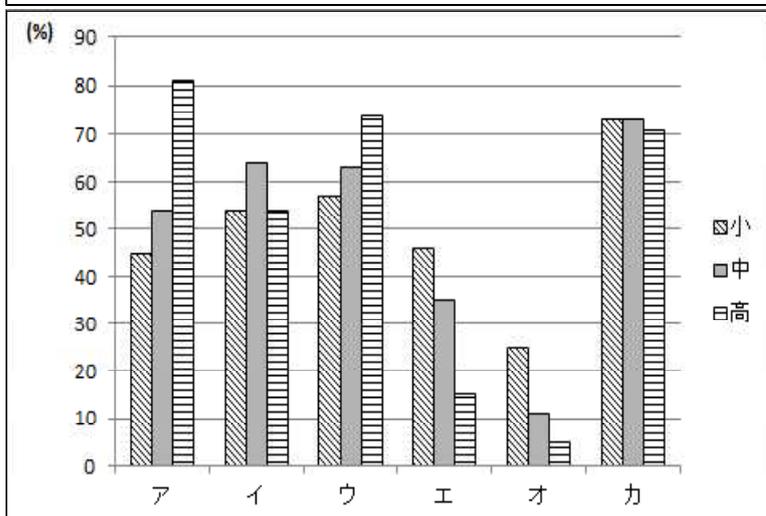


どの校種でもエ筋道立てて考えることやオ多面的に考えることが不十分だと感じている教員が多いことが分かった。また、小学校ではカ異なる考えを生み出すことが、中、高等学校ではイ見通しをもつことが不十分だと感じている教員が多いことが分かった。このような力は課題解決的な学習において発揮することにより高まっていくものであるため、一層の充実を図る必要がある。

【図2 不十分だと感じる思考力】

(ウ) 課題解決に対する学習態度について

- ③ 次のア～カは、児童生徒に身に付けさせたいと考えられる学習態度の主なものです。これらのうち、あなたが現在授業を担当している児童生徒について不十分だと感じているものを三つ選んでください。
- ア 課題を自分と関係のあることと捉え、主体的に取り組むことができる。
 - イ 課題を解決するために、自分自身の見通しや考えに基づいて活動することができる。
 - ウ 課題を解決するために、粘り強く取り組むことができる。
 - エ 課題の解決にグループ等で分担して取り組む際に、自分の責任を果たそうとすることができる。
 - オ 課題を解決するために、他者と協力して取り組むことができる。
 - カ 自分が学習に取り組んだ過程を振り返り、自己の高まりを感じたり、次に生かそうとしたりすることができる。



どの校種でも、他者と協力して取り組むことができる一方で、ア課題を自分と関係のあることとして捉え、解決に向けてイ自らの考えに基づき粘り強く取り組むことや、ウ取組の過程を振り返り、自己の高まりを感じたり、次に生かそうとしたりすることが不十分だと感じている教員が多いことが分かった。課題設定を工夫するとともに、見通しをもったり振り返ったりする活動の充実を図る必要がある。

【図3 不十分だと感じる学習態度】

イ 授業で取り組ませる学習課題について

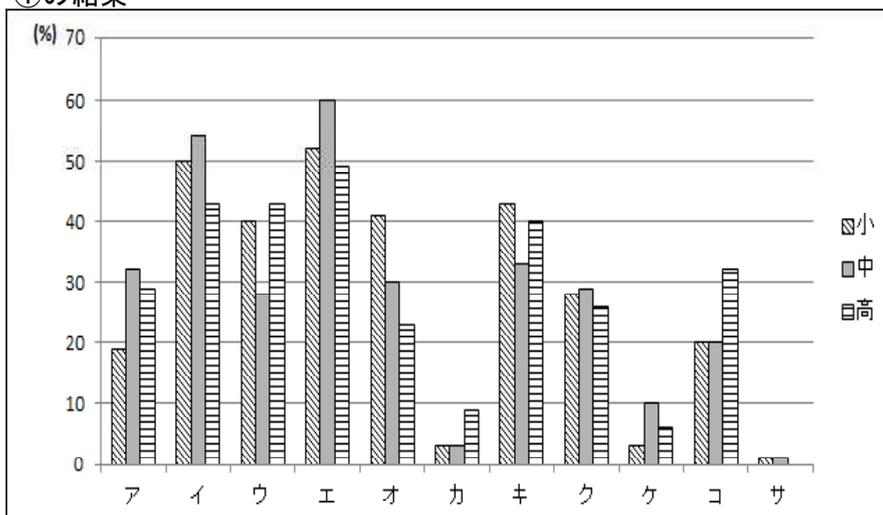
(ア) 大切だと考える課題と取組の状況について

① 児童生徒の学習意欲を高め、主体的な思考や表現を促すためには、どのような課題に取り組ませることが大切だと考えますか。次のア～サから三つ選んでください。

② あなたがかねての授業において児童生徒によく取り組ませている課題は、どのようなものが多いですか。次のア～サから三つ選んでください。

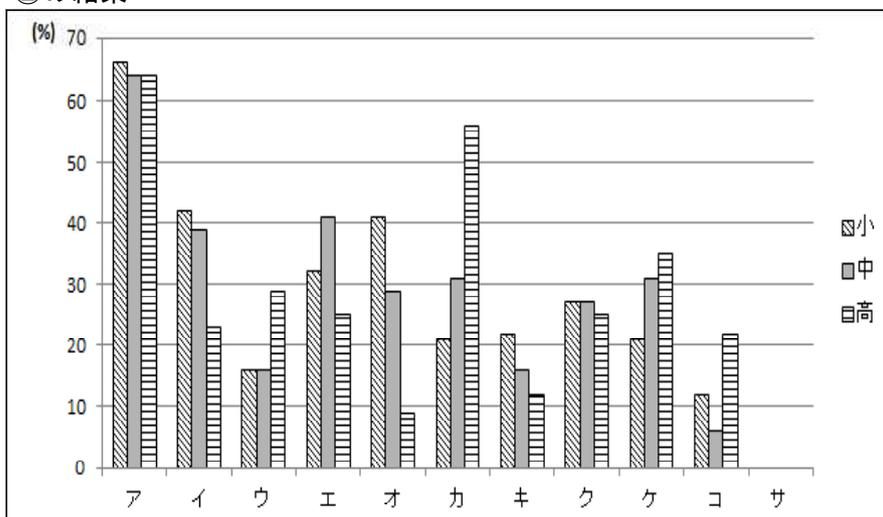
- ア これまでに学習した知識・技能を繰り返し用いることで、それらの習得を図るような課題
- イ その教科等でこれまでに学習した知識・技能を異なる場面等に適用して考えたり、表現したりするような課題
- ウ 各教科等で学んだ知識・技能を総合的に用いて考えたり、表現したりするような課題
- エ 実際の生活や社会と関係があり、児童生徒が身近に感じることができるといえるような事柄を取り扱った課題
- オ 体験的・実験的な活動を伴うことで分かりやすいものとなるような課題
- カ 正答や解決方法がある程度明確に定まっているような課題
- キ 正答や解決方法がある程度多様に考えられ、児童生徒が自分なりの考えをつくり出すことを求めるような課題
- ク 少人数グループで分担して調べたり、話し合っって結論を出したりする必要がある課題
- ケ 児童生徒が比較的困難さを感じない基礎的な課題
- コ 児童生徒が比較的困難さを感じるような発展性のある課題
- サ その他

①の結果



【図4 大切だと考える課題】

②の結果

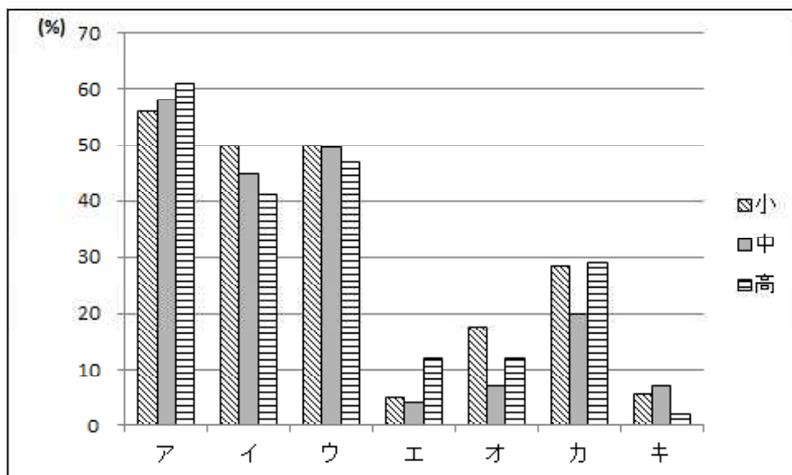


【図5 よく取り組ませている課題】

どの校種でも、習得した知識・技能の活用を促す課題や、実生活や実社会との関連性を意識させる課題等が大切だと考えているが、かねての授業ではそのような課題にはあまり取り組ませておらず、知識・技能を反復することによって習得させる課題や正答や解決方法がある程度定まっている課題等に取り組ませている教員が多いことが分かった。次世代を担う児童生徒に求められる課題解決に必要な資質・能力とはどのようなものか、また、それらを育成するためにはどのような課題に取り組ませるべきか見つめ直す必要がある。

(イ) 大切だと考えるが取り組ませていない理由

- ③ ①と②の選択が一致しなかった方のみ、回答してください。
- 大切だと考えるが、取り組ませることができていないのは、どのような理由からですか。次のア～キから当てはまるものを全て選んでください。
- ア 教科書の進み具合等を考慮すると、時間の確保が難しいから。
 - イ 児童生徒が解決に時間を要するために、時間の確保が難しいから。
 - ウ 児童生徒の実態から、基礎的・基本的な知識・技能の習得を重視した方がよいから。
 - エ そのような課題を設定しても、児童生徒の学力の向上が感じられないから。
 - オ どのような課題に取り組ませるとよいか分からないから。
 - カ 適当な課題を用意することが難しいから。
 - キ その他

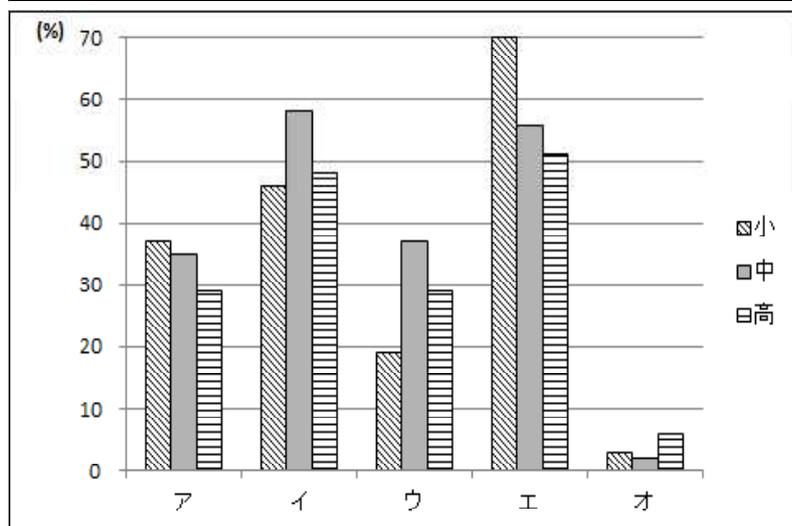


ア、イ時間確保の困難さや知識・技能の習得の重視を理由に挙げる教員が多かった。このことから、「習得した知識・技能の活用を図る課題等を指導計画にどのように位置付ければよいのか分からない」、また、「そのような課題に取り組ませても知識・技能の習得にはつながらないのではないか」などといった疑問や不安を抱く教員が多いことがうかがえる。

ウ 授業で取り組ませる学習活動について

(ア) 言語活動の充実に関する取組状況について

- ① 思考力・判断力・表現力の育成を図る言語活動の充実に関するあなたの取組状況について、次のア～オから当てはまるものを全て選んでください。
- ア 言語活動を単元の指導計画に位置付け、意図的・計画的に取り組んでいる。
 - イ 教科の特性を踏まえた言語活動について検討し、取り組んでいる。
 - ウ 「思考・判断・表現」の評価と関連付けた言語活動を工夫し、取り組んでいる。
 - エ 児童生徒が安心して、自由に発表や発言ができるような雰囲気づくりや学習活動のルールをつくっている。
 - オ 特に取り組んでいない。



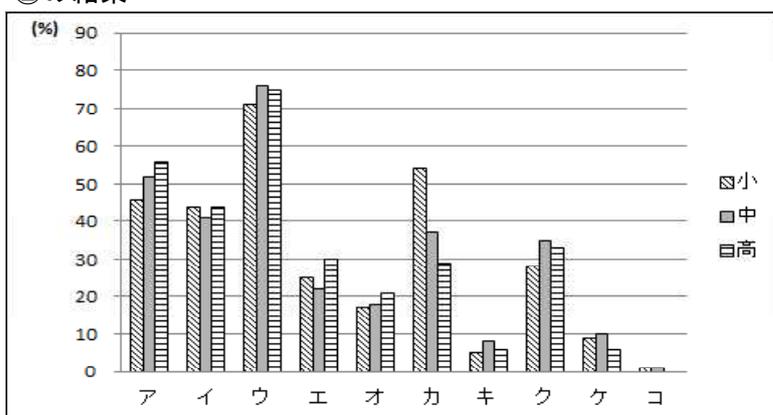
どの校種でも学級の受容的、共感的な雰囲気づくりや学習活動のルールづくりに取り組んでいる教員が多いことが分かった。また、指導計画への意図的・計画的な位置付けや評価と関連付けた工夫への取組は少ないことが分かった。どのようなねらいで、どのような言語活動を位置付け、どのように評価していくのか、授業づくりの一連の過程を具体化した取組が必要である。

(イ) 大切だと考える学習活動と取組の状況について

- ② 児童生徒の学習意欲を高め、主体的な思考や表現を促すためには、どのような学習活動に取り組ませることが大切だと思いますか。次のア～コから三つ選んでください。
- ③ あなたがかねての授業において児童生徒によく取り組ませている学習活動は、どのようなものが多いですか。次のア～コから三つ選んでください。

- ア 個人で考え、解決を図る学習活動
 イ ペアで発表し合ったり、話し合ったりする学習活動
 ウ 少人数グループで発表し合ったり、話し合ったりする学習活動
 エ 学級全体など多人数で発表し合ったり、話し合ったりする学習活動
 オ 立場を決めて議論し合う学習活動
 カ 小黒板やホワイトボード、付箋等を使って話し合う学習活動
 キ ポスターや壁新聞等を作成して発表し合う学習活動
 ク ICTを活用して考えたり、説明したりする学習活動
 ケ 地域住民や保護者、専門家等に話を聞いたり、インタビューをしたりする学習活動
 コ その他

②の結果

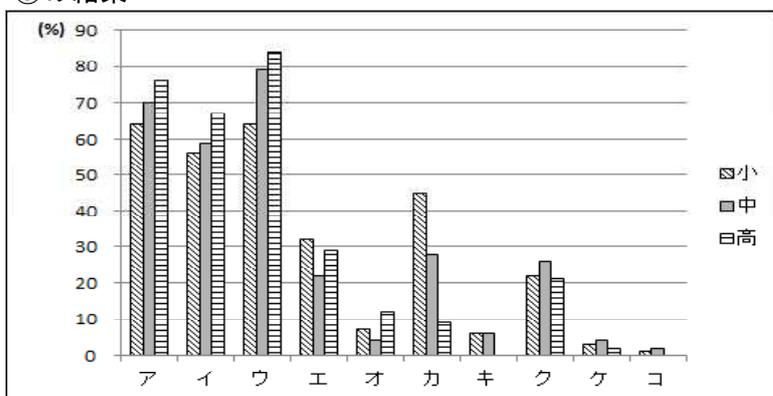


【図8 大切だと考える学習活動】

どの校種でも、ウ少人数グループ

で発表し合ったり、話し合ったりする学習活動に取り組ませることが大切だと考え、かねてから取り組ませている教員が多いことが分かった。ただし、カ小黒板やホワイトボード、付箋等を使って話し合う学習活動や、クICTを活用して考えたり、説明したりする学習活動は大切だと考えるが、あまり取り組んでいない教員が多かった。

③の結果



【図9 取り組ませている学習活動】

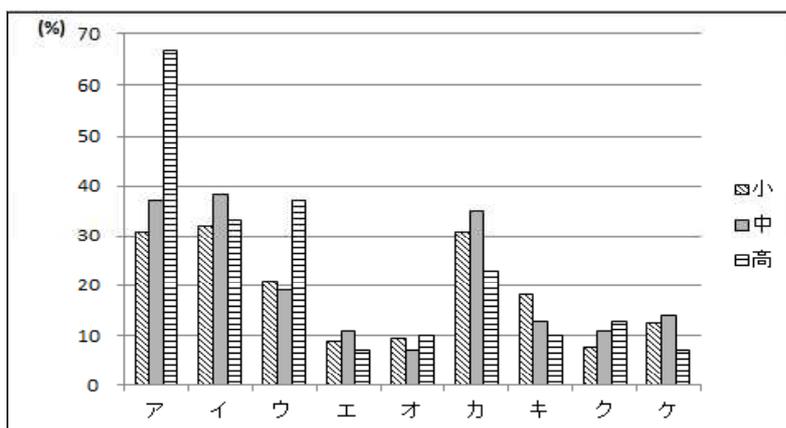
また、オ立場を決めて議論し合う学習活動や、キポスターや壁新聞等を作成して発表し合う学習活動、ケ地域住民等に調査を行う活動は大切だと考える教員は少なかった。育成したい資質・能力を踏まえた学習活動の設定について検討していく必要がある。

(ウ) 大切だと考えるが取り組ませない理由

- ④ ②と③の選択が一致しなかった方のみ、回答してください。

大切だと考えるが、取り組ませることができていないのは、どのような理由からですか。次のア～キから当てはまるものを全て選んでください。

- ア 教科書の進み具合等を考慮すると、時間の確保が難しいから。
 イ 児童生徒が解決に時間を要するために、時間の確保が難しいから。
 ウ 児童生徒の実態から、基礎的・基本的な知識・技能の習得を重視した方がよいから。
 エ そのような学習活動を設定しても、児童生徒の学力の向上が感じられないから。
 オ どのような学習活動に取り組ませるとよいか分からないから。
 カ 学力や学習態度の個人差が大きいから。
 キ そのような学習活動に必要な能力が児童生徒に育っていないから。
 ク そのような活動に必要な態度や人間関係が育っていないから。
 ケ その他



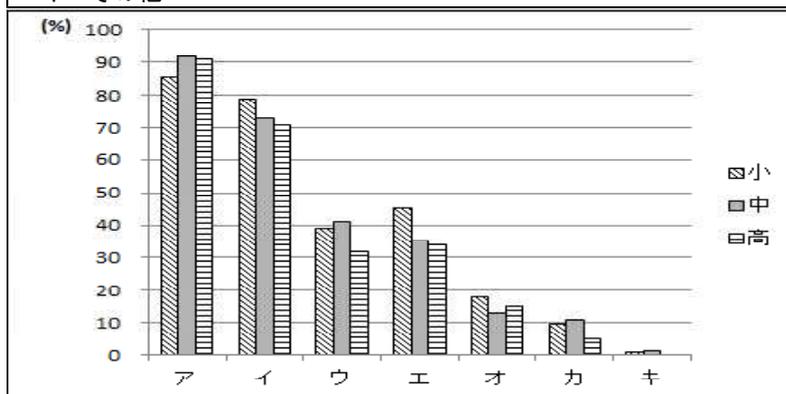
【図10 取り組ませていない理由】

ア、イ時間確保の困難さや、ウ知識・技能の習得の重視、エ学力や学習態度の個人差や不足を理由に挙げる教員が多かった。しかし、学習意欲や思考・表現に必要な資質・能力は児童生徒が主体的・協働的に学ぶ学習を通して育成されることから、ねらいや児童生徒の実態を踏まえて学習活動を工夫し、計画的に取り組んでいく必要がある。

エ 学習評価について

(ア) 思考力・判断力・表現力等に関する評価方法

- ① 各教科等の思考力・判断力・表現力等に関する評価は、どのような情報や資料を基に行っていますか。次のア～キからよく利用しているものを三つ以内で選んでください。
- ア 記述式のテスト（市販のテスト，定期テスト，自作の小テスト）
 - イ 授業中のノートやワークシート
 - ウ 自分で調べたことや考えたことなどを書いたレポートや報告物
 - エ 児童生徒の説明や発言，話合いの内容（説明，討論など）
 - オ 授業後に記述した振り返りシート（自己評価）
 - カ 学習の成果を蓄積したファイル（ポートフォリオ）
 - キ その他

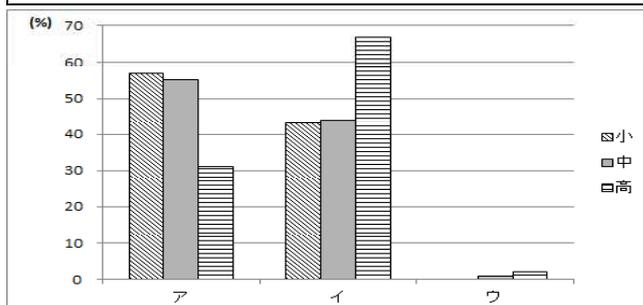


【図11 思考力・判断力・表現力等に関する評価方法】

どの校種でもア記述式のテスト、イ授業中のノートやワークシート、エ児童生徒の説明や発言、話合いの内容を選択している教員が多かった。このことから、児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成状況を思考の過程や結果を表現したものから見取っていることが分かった。

(イ) 思考力・判断力・表現力等に関する評価の基準

- ② ①の情報や資料を基に、A「十分満足できる状況」、B「おおむね満足できる状況」をどのように判断していますか。次のア～ウから一つだけ選んでください。
- ア A「十分満足できる状況」、B「おおむね満足できる状況」を判断するための基準（めやす）をそれぞれ定めて判断している。
 - イ 特に判断するための基準（めやす）は定めず、評価規準をB「おおむね満足できる状況」とし、それを基にA・Bを判断している。
 - ウ その他



【図12 思考力・判断力・表現力等に関する評価の基準】

思考力・判断力・表現力等の評価において、「十分満足できる状況」、「おおむね満足できる状況」を判断するに当たって、ア判断するための基準を定めて判断している教員は、小、中学校で約半数、高等学校では約30%である。特に、高等学校では、イ判断するための基準は定めず、評価規準を基に判断している教員が多いことが分かった。

3 課題を解決するために必要な資質・能力とは、どのようなものか

(1) 学校教育法に基づく育成したい資質・能力

学校教育法第30条第2項が定める学校教育において重視すべき学力の三要素は「基礎的・基本的な知識・技能」, 「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他の能力（以下, 「思考力, 判断力・表現力等」という。）, 「主体的に学習に取り組む態度」である【資料3】。これら児童生徒が授業を通して身に付けていくイメージを自動車为例に模式図で示すと, 【資料4】のよう

に表すことができると考える。「基礎的・基本的な知識・技能」と「思考力・判断力・表現力等」は, 両輪として捉えバランスよく育成すべきであり, 「主体的に学習に取り組む態度」は, 課題解決の原動力となるエンジンとして捉え情意面の育成も重視すべきである。その際, 児童生徒が生きていくこれからの社会の様相を考慮すると, 課題解決に対して主体的に粘り強く, 責任をもって取り組む態度や, 考えの多様性を尊重しながら互いのよさを生かして協働する力やコミュニケーションを行う力, 社会に参画したり環境へ配慮したりする姿勢がますます重要である。また, このような態度の育成に当たっては, 児童生徒自らが課題解決への見通しをもったり, 解決の過程や結果を振り返ったりすることを通して, 自己の高まりや修正点に気付くことが重要である。そこで, このような気付きのことを「自覚化」と捉えた。この「自覚化」は課題解決の方向性を決定付けていくことから, 自動車のハンドルの役割を果たすものと言える。課題解決を展開していくのは児童生徒であるべきであり, 児童生徒自身が自らの思考のプロセス等を客観的に捉え, 自己の感情や行動を統制することができる力を育成していく必要がある。

【資料3】学校教育法に定められている学力の三要素

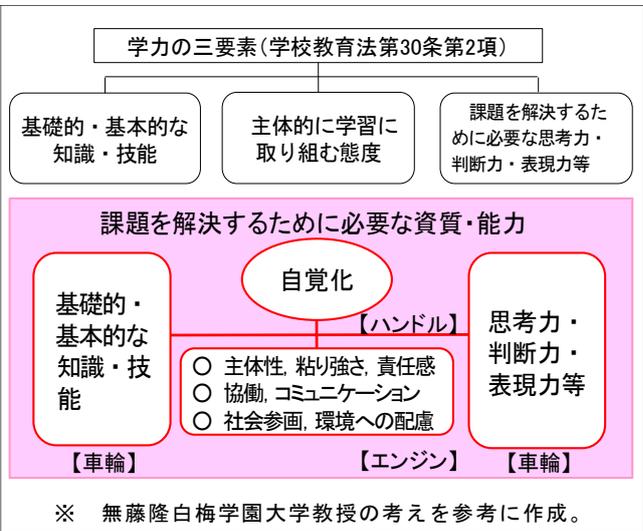
学校教育法第30条

小学校における教育は, 前条に規定する目的を実現するために必要な程度において第21条各号に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

2 前項の場合においては, 生涯にわたり学習する基盤が培われるよう, 基礎的な知識及び技能を習得させるとともに, これらを活用して課題を解決するために必要な思考力, 判断力, 表現力その他の能力をはぐくみ, 主体的に学習に取り組む態度を養うことに, 特に意を用いなければならない。

※ 第30条第2項は, 中学校及び高等学校に準用

【資料4】課題を解決するために必要な資質・能力



(2) 課題解決的な学習を通じた資質・能力の育成

これまで述べてきた資質・能力を授業を通して育成するためには, 基礎的・基本的な知識・技能を活用した課題解決的な学習を重視するとともに, 児童生徒の主体的・協働的な学習が促されるよう工夫する必要がある。なぜなら, 思考力・判断力・表現力等は児童生徒が課題解決に取り組む中で発揮させることによって高まる資質・能力であり, 個別の知識・技能についても課題解決の文脈や状況に応じて組み合わせられたり, 関連付けられたりしながら活用されることによって体系化が図られ, 理解を伴った知識・技能として定着が図られていくものであるからである。また, 他者と考えを比較・検討することによって互いの考えの相違点や共通点に気付き, そのことが問題意識を一層高めたり, 自分の考えを見直し, 新たな考えをつくり出したりすることにつながるなど, 主体的な学習態度に関する能力の育成に好影響を与えることが期待できるからである。

このような学習活動の充実は、学習指導要領においても重視されており、いずれの教科等においても思考力・判断力・表現力等の育成を目的とした学習活動として例示されている【資料5】。そこで、このような課題解決的な学習を展開するに当たっては、どのような過程においてどのような資質・能力を重点的に育成するのかを明確にして授業に臨むために、表出させたい児童生徒の姿を【資料6】のように具体的に想定して

【資料5】学習指導要領における学習活動の例示

小学校及び中学校学習指導要領 第1章 総則 第4
2(2) 各教科等の指導に当たっては、体験的な学習や基礎的・基本的な知識及び技能を活用した問題解決的な学習を重視するとともに、児童(生徒)の興味・関心を生かし、自主的・自発的な学習が促されるよう工夫すること。

	国語科	社会・地歴・公民科	算数・数学科	理科	外国語活動、外国語科
小学校	言語活動	問題解決的な学習	算数的活動	問題解決の活動	外国語による体験的なコミュニケーション活動
中学校	学習過程の明確化	課題追究的な学習	数学的活動	科学的に探究する学習	外国語による4技能にわたるコミュニケーション活動
高等学校		課題探究的な学習		探究的な学習活動	

おくことが必要である。その際、当課の調査や全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、文章等から情報を正しく読み取ることや書いたり話したりするなど表現を通して自分の考えを整理すること、考えの相互交流を通して自分の考えを多面的に検討すること、学習した過程や内容を振り返り自己の高まりを感じたり、次に生かすための改善点等を明確にしたりすることなどを特に大切にしたい。

【資料6】課題解決的^{*1}な学習の過程における具体的な姿の例

学習過程 ^{*2}	具体的な姿の例	基礎的・基本的な知識・技能	思考力・判断力・表現力等	主体的な学習態度
課題の把握 (課題を見だし、追究意欲を高める)	・ 自ら対象に働き掛けたり、試行錯誤したりして、情報を収集することができる。	○ ^{*3}		○
	・ 既存の知識や経験と照らし合わせたり、友達の考えと比較したりして、課題を見いだすことができる。		○	○
	・ 見いだした疑問や課題を整理・焦点化するなどし、明確にすることができる。		○	
	・ 目標を自覚したり、学習する意義を見いだしたりすることができる。			○
情報の収集 (見通しをもって、必要な情報を収集する)	・ 課題に対する予想や仮説を立て、検証方法を考えることができる。	○	○	
	・ 「整理・分析」に必要な情報を主体的に粘り強く収集しようとするすることができる。			○
	・ 課題解決に必要な知識・技能を習得したり活用したりすることができる。	○	○	
整理・分析 (収集した情報を整理、分析する)	・ 情報や結果を目的に応じて図や表、グラフなどに整理・分類し、傾向や共通点・差異点を捉えることができる。	○	○	
	・ 自分の予想や仮説を見直し、必要に応じて修正したり、再度確かめたりすることができる。		○	○
まとめ・表現 (課題に対する考えをもち、適切に表現する)	・ 調べて得た事柄を基にして、自分の考えをもつことができる。	○	○	
	・ 自分の考えが相手に伝わるように、話し言葉や書き言葉で的確に述べるすることができる。	○	○	
	・ 自己の学習状況を振り返り、学んだことの価値や自己の高まり、今後の努力点等に気付くことができる。			○
	・ 実生活や実社会等へ適用して説明することができる。	○	○	○

*1 「課題解決的な学習」という表現は、「問題解決的な学習」と同義として用いている。

*2 学習過程は、総合的な学習の時間における探究的な学習の過程を参考にした。

*3 各過程において、特に発揮されていると思われる資質・能力に○を付けた。

4 授業において解決に取り組ませるべき課題は、どうあるべきか

(1) 課題設定の視点

前述した資質・能力を授業を通して育成するためには、各教科等の授業において児童生徒が主体的・協働的に課題解決に取り組むことが重要である。そこで、そのような必要性を感じさせる課題の設定が重要であることから、【資料7】に示す視点から課題設定を工夫することを提案する。児童生徒が自分のこととして受け止め、学習意欲を高めることができるような課題とは、知識・技能の活用を促すことによって見通しをもって課題解決に取り組み、その過程を通して知識・技能を確かに習得できるような課題などである。また、児童生徒が学び合うことの意義を感じ、協働して解決する力を高めることができるような課題とは、情報を多面的に収集、検討することを通して、論理的、批判的に思考することを促すような課題などである。

(2) 課題設定に当たって

前述のような課題を設定するためには、【資料8】に示すように単元の系統性やねらい、教材や題材の特性を十分に把握した上で、本単元で育成したい資質・能力を評価規準の設定を通して明確にする必要がある。その際は、児童生徒にとってその教材や題材を学ぶ価値や楽しさは何か、この学習を通してどのような資質・能力を育成するのかを明確にすることが重要である。その上で、児童生徒が自ら課題を見いだす力を高めることができるよう、提示する事象や場面、課題発見のきっかけとなる活動の設定等を工夫する必要がある。また、学習を進める中で児童生徒が必然的にもつ問いを取り上げ、課題として焦点化することも考えられる【資料9】。その際は、全ての児童生徒が課題意識をもって主体的・協働的に学ぶことができる課題であるか、難易度も含めて十分に検討することが大切である。課題解決を通して、一人一人に深い理解を促すことのできる課題設定が求められる。

【資料7】考えられる課題設定の視点

- ア 児童生徒が自分の事として受け止め、学習意欲を高めることができるような課題
 (7) 知識・技能の活用を促す課題（見通しをもった課題解決、知識・技能の確かな習得）
 (4) 実社会や実生活との関連について認識を深める課題（学習内容の価値の実感）
 (7) 自分なりの考えを導き出す必要のある課題（自己決定、自己判断の必要性の実感）
- イ 児童生徒が学び合うことの意義を感じ、協働して解決する力を高めることができるような課題
 (7) 情報を多面的に収集、検討する必要のある課題（論理的、批判的な思考の発揮）
 (4) 考えを出し合い、グループの意見として集約する必要のある課題（協働する力、創造的に思考する力の発揮）

【資料8】課題の設定例（概要）

単元の位置とねらい 例：小6理科「水溶液の性質」
 5年「物の溶け方」→本単元→中1「水溶液」
 水溶液の性質や働きについて考えをもつ。

教材の特性
 ・水溶液にはそれぞれ固有の性質があり、それらの性質を生活に利用している、など。

本単元で育成したい資質・能力（評価規準）

関心・意欲・態度	思考・表現	技能	知識・理解
興味・関心をもつて追究する。	推論しながら追究し、表現する。	実験器具を適切に用いて調べる。	水溶液は酸性、中性、アルカリ性に分けられる。

教師による事象提示や場面設定

〇〇先生からの挑戦状
 ラベルのついていない試験管の中には、塩酸、炭酸水、アンモニア水、ミョウバン水が入っています。この中で、ミョウバン水はどれか見分けられますか。

※ ミョウバン水は、未習の水溶液である。

児童が見いだした課題と、解決への見通し
 正体不明の水溶液を見分けるには、どうすればよいのだろうか。
 ・まず、正体不明の水溶液の性質を調べ、その結果を基にして見分けるといいのではないか。

【資料9】児童生徒の問いが連続、発展する展開の例

例：数学「三角比」（高1）、「三角関数」（高2）

直角三角形において、 $\sin 30^\circ$ について学習

生徒がもつ問い「 $\sin 120^\circ$ など、 90° 以上の角では \sin の値はないのだろうか。」

課題
 90° 以上 180° 以下の角の \sin をどのように定義したらよいか。

結論
 半径 r の円周上の点 (x, y) をとり、 $\frac{y}{r}$ で \sin を定義する。

生徒がもつ問い「 $\sin(-30^\circ)$ など、負の角では \sin の値はないのだろうか。」

課題
 負の角や 180° よりも大きな角の \sin をどのように定義したらよいか。

結論
 角度に回転の向きと大きさを考えて \sin を定義する。

5 児童生徒が主体的・協働的に学ぶためには、どのような工夫が効果的か

(1) 工夫の視点

課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習を促進するためには、言語活動の充実やペア学習・グループ学習等の推進、ICTや外部人材の効果的活用等が考えられる。特に、思考力・判断力・表現力等を育成するには、互いに考えを深める場面や考えを発表したり書いたりする場面における言語活動の充実を図り、多面的、創造的な思考を通して適切に表現することができるようにすることが求められる【資料10】。

(2) 授業構想に当たって

授業構想に当たっては、課題解決的な学習や言語活動等が形式的に行われることがないよう留意しなければならない。そのためには、ねらいとする資質・能力が確かに育成されるよう学習活動や教師の働き掛けを具体化することが必要である。特に、関心や意欲を喚起する課題設定の仕方や、習得、活用させる基礎的・基本的な知識・技能、読み取りや解釈、説明などといった言語活動の位置付け、予想される生徒の表現例等を明確にしておくことが不可欠である【資料11】。

また、児童生徒の表現例を評価規準に基づいた「判断基準」*4の設定を通して想定することで、思考力・判断力・表現力を発揮している様子を適切に見取り、指導に生かすことが求められる。

【資料10】言語活動の充実の視点と活動例

場面	視点	活動例
考えを深める場面	一人一人が自分の考えをもち、他者の考えとの共通点や相違点を意識しながら考えを深めていくような言語活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ペアやグループで意見を交換する。 付箋を用いて、考えを書き出したり整理したりしながら話し合う。 ホワイトボードや模造紙を使って話し合う。
発表する場面	自分でまとめた事柄などについて説明したり、相手の立場や考えを互いに尊重して話し合ったりするような言語活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 調べたことや考えたことを説明する。 製作物を使って発表する(ポスターセッション)。 立場を決めて議論する。
書く場面	集めた情報を整理・分析し、論理的にまとめて表現するような言語活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> レポートにまとめる。 新聞にまとめる。 ICTを活用してまとめる。

※ 文部科学省「言語活動を通じた授業改善のイメージ例」を基に作成。

【資料11】主体的・協働的な学習を位置付けた授業構想(概要)

例：中3社会「人権と共生社会」

課題解決のための主な学習活動の流れ		形態	主体的・協働的な学習
導入 課題設定	「関心・意欲」の喚起 「憲法に社会権が規定されているのはなぜだろうか。」	一斉	読み取り 資料を基に生徒が設定。
展開	「基礎的・基本的な知識」 ・社会権の種類 ① 生存権 ② 教育を受ける権利 ③ 勤労の権利 ④ 労働基本権 ・社会保障制度の充実	一斉・個	読み取り 教科書記述や憲法条文から生徒がリストアップ。
習得 ↓ ↑ 活用	「資料活用の技能」 【資料】 ア 憲法第25条① イ 小学校入学の日の様子 ウ 生涯学習(料理教室)の様子、外	グループ	読み取り・解釈 資料から読み取った情報の意味を考察。
	「思考・表現」 資料を基に考え、説明する ・生存権等が定められている理由 ・社会保障制度の充実が必要な理由	グループ	解釈・説明 知識・技能を活用して説明し合う。
終末 結論付け	予想される生徒の表現例 「全ての社会権は、人々が人間らしく生きるために必要な権利であるから。」	個 一斉	説明 各自でまとめた案を作り全体へ説明。

以上のような考え方を踏まえ、平成27年度は22人の研究協力員が実践を行った【資料12】。

【資料12】各教科等の実践例

教科等	実践例 ※(小)は小学校、(中)は中学校、(高)は高等学校での実践を表す。
国語	<ul style="list-style-type: none"> 心情曲線図を用いて説明させることにより、自他の読みを深め、広げる交流活動(小) 郷土の文学「日新公いろは歌」を通して自分の生き方に対する考えを深め、発表する活動(高)
社会・歴史・公民	<ul style="list-style-type: none"> 栽培漁業の取組について、地域素材(クロマグロの養殖に関する自作資料)から考える活動(小) 価格決定のメカニズムに関する需要曲線と供給曲線の動きをシミュレーションする活動(高)
算数・数学	<ul style="list-style-type: none"> 水飲み場の形に似た図形を題材に、複合図形の体積の求め方をグループで調べる算数的活動(小) 「相似な図形」の考えを基に、体育館の高さをグループで求める数学的活動(中)
理科	<ul style="list-style-type: none"> ワインからエタノールを抽出する方法を知識構成型ジグソー法により考案する活動(中) 簡易モーターが回転し続ける仕組みをモデル化し、グループや全体で説明し合う活動(高)
外国語活動・外国語	<ul style="list-style-type: none"> 道案内をする場面のスキットづくりを、相互評価を通して課題を明確にし、改善する活動(小) 二重被爆に関する英文を読み、グループで協力して平和に関するスピーチを作成する活動(高)

*4 児童生徒の思考や判断の結果が表現される「説明」や「論述」等の言語活動において、目標の達成状況を判断する具体的な尺度。設定の仕方等の詳細については、当センター研究紀要第117号、119号を参照。